

「連画 絵のリレー」 高学年グループに参加して
石川県金沢市立大野町小学校 辻 和久

1 活動にあたって

小学校も高学年になってくると、人とのかかわり合いがうまくとれなくなったりする。授業の中でもできるだけ一人では生まれない活動を取り入れ、みんなで一つのことを成し遂げる喜びを味わえる授業づくりに取り組んでいる。そんな時にまさしく、一人では生まれない「連画 絵のリレー」と出会ったのである。デジタルで絵を描くということは未知であったが、加工や修正が容易で保存しても劣化することがない特性を生かし、いろいろと試行錯誤をした。また、本実践にあたっては、河崎先生（神奈川県綾瀬市土棚小学校）からマニュアルをいただき、子どもたちにはそれを見せながら進めていった。

2 実際の活動

- (1) カンプリアンゲームなど連画の起源について知り、昨年度の実践例を見る
- (2) このプロジェクトと連画マニュアルの説明
- (3) 種絵の鑑賞と簡単な操作に慣れる
- (4) 種絵から自分の表現を加え、作品をつくる
- (5) 全員の絵の鑑賞し、クラス代表の絵を一つ決める
- (6) 種絵以外からリレーした絵を選び、自分の表現を加える
- (7) 作品を仕上げ、アップロードする
- (8) 全体俯瞰図を再度見つめ、多くの人の中にいる自分、どのような絵が描かれているかを知る



図1 子どもたちの様子

3 連画に取り組んだ子どもたちの様子

- ・「デジタルで表現することの新鮮さを感じた子」...今まで絵を描く時に、失敗して消す（修正する）場面が多かった子たちは、線や色づかいが失敗しても、簡単にやり直してできることよさに喜んでた。
- ・「自分の絵にたくさんの子がリレーしてくれた子」...自分の絵に続いてくれること、自分の絵の気に入っているところを生かして（残して）くれることがうれしいとのことだった。
- ・「自分の絵に誰もリレーしてくれなかった子」...悲しい、むなしい、さびしいなどの声が上がった。そこで、全体俯瞰図を眺め、つかない人もいるから連画は成立することや、絵は一つではなく、二つ、三つ描くこともすすめるきっかけになった。

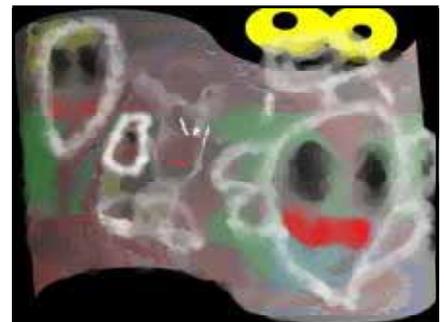


図2 Fさんの作品

4 子どもたちの落ちいりやすい失敗

- ・遠慮があるのか、大胆に加工・修正を加えることができなかったこと。
- ・真似をすることも大切なことだと思うが、手を加えるところまで全く同じ子どもがいたこと。
- ・友だちの作品のよさを見つけることは難しかった。
（例えば、Fさんは図2のような絵を描いた。子どもも教師も明確な評価を言い切れなかったが、種絵を描かれた中村さんは、もとになった作品とのつながりから、ぼかした表現のよさについてFさんの作品のよさを的確に評価された。本当に難しいものだと感じた瞬間だった。）

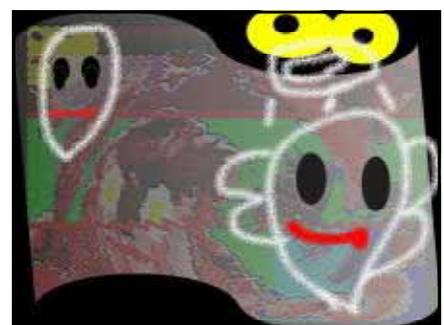


図3 Fさんのもとになった作品

5 教師の支援

自分はこの学習において、図工科の身につけさせたい力を何に絞って、進めてきたのだろうか。どういう作品ができた時、子どもたちがどう感じてくれたら、それをゴールとしたのだろうか。これらを明確にすることが、「連画 絵のリレー」にとって一番大切なことだと思った。